

# 技術力とネットワークで 高品質の鑄造部品を供給

海外  
発注可  
試作可  
小ロット  
量産  
対応



生産する各種鑄造部品

業務  
内容  
小ロット品から  
量産品までに対応

ねずみ鉄（FC）やダクタイル鉄（FCD）を素材にした部品（部材）の生産を得意にする。0.1kgから30kgまでの小物に強く、30個程度の小ロット品から2000個程度の量産品までに対応する。関連会社とタイアップして加工までを請け負う体制を構築するほか、中物および大物の要望に対しては海外から調達する仕組みを整える。品質確保と安定供給を実践していることからユーザーからの信頼も高く、現在は大手の農業機械・建設機械・産業機械メーカーなどに鑄物部品を供給している。

強み  
顧客ニーズへの対応力と  
効率的生産が武器

月産約300tの生産能力を持つ本社工場に加えて、倉庫として和泉工場（大阪府和泉市）を持つ。また、輸入鑄物部品の専門商社、朋友金属株式会社（同）を関連会社とするほか、加工業務を行う協力会社・株式会社スギテック（堺市）を加えて国内ネットワークを構築中。さらに朋友金属との折半出資で「澳薩珈金属材料（上海）有限公司」を設立するほか、現地企業と合併で立ち上げた「太倉中佑機械工業有限公司」など中国における生産も積極的で、この2社以外に8社の鑄物工場（台湾企業も含む）と協力関係を結ぶ。納期や価格など様々な顧客ニーズに対応すると同時に、需要動向などに応じて効率よく生産できる経営基盤が大きな武器となっている。

人材  
育成  
技術伝承に注力

元素の配合、鑄造・冷却温度の設定など品質の高い鑄物づくりには、これらの鑄造技術の伝承が欠かせない。そこで同社では外部から講師も招いて研修を実施するほか、社内講師も輪番制とし、社内全体のレベルアップを図る。具体的には、なにわの名工や現代の名工などで表彰された社員が率先して行う。中国および台湾の協力工場に対しても日本人スタッフの派遣や常駐で、技術指導を徹底する。最新の自動造型機も導入済みで、各工程で徹底した品質管理を行うほか、今後は検査装置の充実も図る計画。

今後の  
展望  
大会社になるより、  
100年後も残る会社



最先端の技術を導入した生産ライン

「同業者は減るばかりで、価格も卵やバナナと同じように昔と変わらない」と業界の状況を語る阪口新太郎社長だが、その一方で「鑄物づくりは未来永劫ある仕事だ」と熱い想いを語る。平成8年から社長として陣頭指揮を取ってきた自動車メーカーから受注がなくなるなど厳しい局面も経験してきたが、品質確保と信頼獲得で難局を乗り切ってきた。今後もその方針を貫く構えで、「継続が一番。規模の大きな会社になるより、小さくてもいいから100年後も生き残っている会社になりたい」と語気を強める。

## COMPANY PROFILE

## 大阪金属株式会社

大阪  
25

ISO 9001

### 当社の 歴史

昭和46年、鑄物企業4社が「ヤマト金属協同組合」を設立。昭和50年4社合併し大阪金属株式会社となりました。昭和51年に泉北工場を竣工。平成12年和泉市テクノステージに和泉工場および倉庫を完成。創業以来約100年世の中に鑄物を提供し、老舗企業と言われる会社を目指して事業に専念致します。

鑄物のプロとして「お客様に信頼される品質確保」を目指し、確かな製品を提供します。

代表取締役 阪口 新太郎さん



### ■主な事業内容

銑鉄鑄物（FC、FCD）による部品および部材の生産

### ■主な取引先（納入先）

農業機械・建設機械・産業機械メーカー

住所／〒592-0001  
高石市高砂  
3-30

TEL／072-268-0151  
FAX／072-268-0155

創業／大正7年1月  
創立／昭和22年3月  
資本金／7,000万円  
従業員／35名

<http://www.osakametal.co.jp>